

- アイサワ工業(株)大阪支店
- 青木あすなろ建設(株)大阪本店
- あおみ建設(株)大阪支店
- (株)浅川組
- (株)浅沼組
- (株)新井組
- (株)安藤・間大阪支店
- 岩田地崎建設(株)大阪支店
- 大木建設(株)大阪支店
- (株)大林組大阪本店
- 大林道路(株)大阪支店
- (株)大本組大阪支店
- (株)奥村組西日本支社 関西支店
- 奥村組土木興業(株)
- オリエンタル白石(株)大阪支店
- 鹿島建設(株)関西支店
- 株木建設(株)大阪支店
- 北野建設(株)大阪支店
- (株)クボタ建設大阪支社
- (株)熊谷組関西支店
- 広成建設(株)大阪支店
- (株)鴻池組
- 五洋建設(株)大阪支店
- 佐藤工業(株)大阪支店
- 清水建設(株)関西支店
- ショーボンド建設(株)近畿圏支社
- 西武建設(株)関西支店
- (株)銭高組
- 大木建設(株)大阪本店
- 大成建設(株)関西支店
- 大成ロテック(株)関西支社
- 大鉄工業(株)
- 大日本土木(株)西日本支社
- 大豊建設(株)大阪支店
- 高松建設(株)
- (株)竹中工務店
- (株)竹中土木大阪本店
- 鉄建建設(株)大阪支店
- 東亜建設工業(株)大阪支店
- 東急建設(株)関西支店
- 東洋建設(株)大阪支店
- 戸田建設(株)大阪支店
- 飛鳥建設(株)大阪支店
- 奈良建設(株)大阪支店
- 南海辰村建設(株)
- 西松建設(株)西日本支社
- 日特建設(株)大阪支店
- (株)NIPPO関西支店
- 日本国土開発(株)大阪支店
- (株)ノバック
- (株)長谷工コーポレーション関西
- (株)ハンシン建設
- (株)ピーエス三菱大阪支店
- (株)久本組
- 深田サルベージ建設(株)大阪支社
- (株)福田組大阪支店
- (株)藤木工務店
- (株)フジタ西日本支社 大阪支店
- (株)不動テトラ大阪支店
- (株)本間組関西支店
- 前田建設工業(株)関西支店
- 松井建設(株)大阪支店
- (株)松村組本社
- 丸磯建設(株)関西支店
- 三井住友建設(株)大阪支店
- みらい建設工業(株)大阪支店
- 村本建設(株)
- 名工建設(株)大阪支店
- (株)森組
- (株)森本組大阪支店
- 矢作建設工業(株)西日本支社
- (株)吉田組
- 寄神建設(株)関西支店
- ライト工業(株)西日本支社
- りんかい日産建設(株)大阪支店
- 若築建設(株)大阪支店

editor's voice  
2021.October

編集後記

今年は、昨年にも増して猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大や各地で起きた大雨・土砂災害など、人々の生活に影響を落とす出来事が続く一年となりました。

一方、東京オリンピックパラリンピックでの日本人選手やメジャーリーグの大谷選手活躍などに元気づけられる一年でもありました。

巻頭対談では、万博のシニアアドバイザーで京都精華大学の学長を務めるマリ共和国出身のウズベコ氏をお招きし、日建連関西支部長の加賀田健司氏と、万博への展望や関西が担う役割、建設業界に期待する多様化と国際化などについて語り合っていました。

また、レポート最前線では、「大阪・関西万博」開催へ向けて進む交通インフラの進捗について、道路と鉄道の両面からレポートしました。

しびる Walkerでは、今号のメインテーマ「紀伊半島大水害から10年を振り返る」に合わせ、8ページの特集化を行いました。奈良県五條市の赤谷地区の取材では、10年にわたる復旧工事でも未だ道半ばという被害の甚大さを感じる一方、多様な新技術・工法を導入して現在の状況まで復旧させてきた建設業の底力を体感することもできました。また、十津川村の取材では、前村長の更谷氏が「道路は『命の道』であり、復旧を通じて建設業の大切さを実感した」とお話しされたことが印象的でした。

今後も建設業が必要とされ、人々に元気を与えられる存在になること、また万博が関西から盛り上がり、日本全体が元気になることを期待しています。

最後に、本誌の発刊に際して、快く取材にご協力を賜りました関係各位のご厚意に心より感謝申し上げます。

「しびる」について、あなたのご意見、ご感想をお聞かせください。

〒540-0031

大阪市中央区北浜東1-30 大阪建設会館内

(一社)日本建設業連合会 関西支部 **ご意見・ご感想係**

送り先



●今号の表紙

『命の道』十津川道路(2021年7月撮影)

奈良県十津川村を縦貫する国道168号(五條新宮道路)のうち、小原～平谷間の「十津川道路」(全6km)が2019年9月に全線開通した。大水害にもびくともしない高規格な高架道路は地元の人々にとっては正に「命の道」だ。

※しびるの既刊号については、こちらをご覧ください。  
<https://www.nikkenren.com/about/shibiru/index.html>

2021  
4/1

インフラ DX の人材育成拠点  
「近畿インフラDX推進センター」がオープン



日本初のインフラDXが学べる研修施設。各ルームでは無人化施工やドローンなどを使った3次元測量など、最先端の技術が体験できる。

この春全国に先駆けて、インフラDX推進を目的とした研修センターが近畿地方整備局の近畿技術事務所内にオープンした。5ヶ月が過ぎた現在、受講予約も数ヶ月先まで満員という人気ぶりだ。30名が学べる座学研修ルームのほか、無人化施工を行うための実技シミュレーションを通じてオ

ペレーターを育成する「建機オペレーションルーム」、ドローンを活用した3次元測量によるデータ作成を学ぶ研修ルーム、BIM/CIMやVRプロジェクターによる3Dシミュレーション体験が可能な「WEB会議ルーム」などで最新のDX技術を学ぶことができる。6月からは地域の建設業に関わる技術者

(施工者)や国・地方公共団体の職員などの発注者を対象とするDX研修もスタート。3次元モデルに関する基礎知識を習得する「入門研修」、3次元ソフトの基本操作を習得する「初級研修」、施工データ作成などを習得する「中級研修」のプログラムがある。

受講者の「声」

ICT活用研修(施工者向け) 初級編

▶8月26日・27日実施

ICTを学び始める人にも最適な研修

入門研修に続き2度目の研修ですが、ICT活用が進んでいく中で今回学んだことを実行しなければという思いを強くしました。これからICTを学び始める人にとっても入りやすいプログラムです。技術面で学べるものがまだまだあると思うので、スキルアップの研修があればまた参加したいですね。ICTは難しいというイメージを持っていましたが、学んだことを実践し、協力会社とも共有することで現場が効率的に進んでいくので、これからは積極的に取り入れていきたいと思っています。



屋外実技研修では実際に建機を使ってICT体験シミュレーション。



東急建設(株)関西支店  
左から添田直樹さん、内田匠一さん、猪飼拓真さん

近畿地方整備局  
ICTを仕事の現場を変えるきっかけに。近畿技術事務所長 達家 養浩さん

今まではICTを取り入れて仕事をする機会はそれほど多くなかったように思いますが、技術が日進月歩で発達する中、様々なことがICTを通じてできるようになりました。ICT技術を取り入れることで、仕事がラクになり、時間に余裕が生まれます。最初は面倒なイメージがありますが、慣れていくとそれが当たり前になり、現場がどんどん変わってきます。これまで研修を受講された9割以上の方から「参加してよかった」という声を頂き、手応えを感じています。研修内容も利用者の声を取り入れて、さらに充実させていきたいですね。

